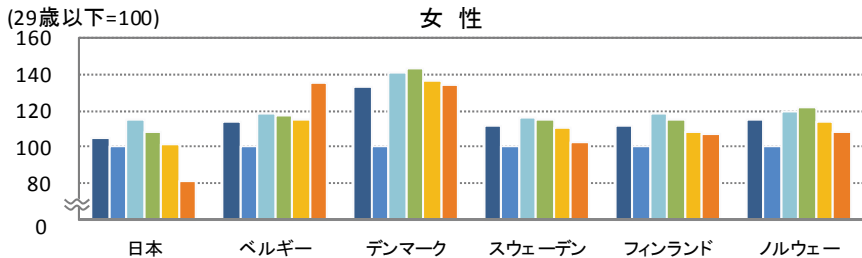
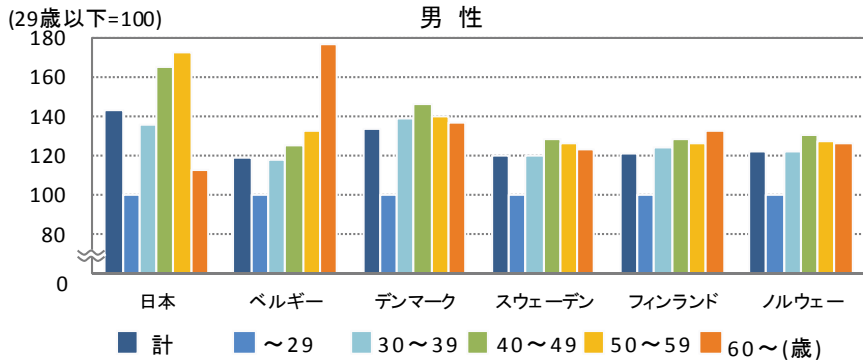


5-3 年齢階級別賃金格差（製造業）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第5-12表 年齢階級別賃金格差(製造業、2006年)」(p.174)を参照。

上のグラフは日本、ベルギー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、ノルウェーについて、29歳以下の賃金を100としたときの年齢階級別賃金指数(格差)を示したものである。

男性についてみると、日本では、年齢階級が高くなるにつれて格差が広がり、50～59歳で最大約1.7倍となるが、60歳以上になると縮小する。日本以外の国々では、29歳以下賃金との最大格差を持つ年齢階級層は、ベルギーでは60歳以上層(1.8倍)、デンマークでは40～49歳層(1.5倍)、スウェーデンでは40～49歳層(1.3倍)、フィンランドでは60歳以上層(1.3倍)、ノルウェーでは40～49歳層(1.3倍)となっている。他方、女性の場合は、男性に比べて年齢階級間の賃金格差は概して小さいが、デンマークでは29歳以下の賃金との格差が、30～39歳層、40～49歳層及び50～59歳層で1.4倍などとなっている。

これらの数値を理解するためには、年齢階層別の労働力率もあわせてみる必要がある。とりわけ、EU諸国において高齢者の労働力率が低いことに注意すべきである。